

みどりの樹

第8号

2001. 夏



— 附属博物館収蔵品 ⑤ —

菊子遊戯之図

椿 貞雄 作（一九二三年）

「デロリ」の魅力

かすりの着物、毛糸の敷物、ふっくらとした綿入れなどの質感、なるほど岸田劉生の弟子、椿貞雄米沢出身）ならではの見事な写実です。そして、この菊子はどついても劉生の麗子を思わせます。

顔は意外に不気味。ぎよろりとした目、ちよっと膨らんだ小鼻、微笑を浮かべる口元、これらは、写実的な印象を破壊して、奇妙な雰囲気を出しています。実は麗子にも気味の悪い絵があり、劉生は、その気味の悪い美を「デロリ」と名付けました。

「デロリ」とは劉生の言にしたがえば、「世界独特」の「じつじい、卑賤（せん）な、濃い、苦い美」であり、「人間の生々しさ、へんに生きた感じを生かす力となっている」ものなのです。この菊子像もまさに「デロリ」の魅力で際立っているのです。

（山形大学附属博物館学芸研究員

人文学部教授 元木幸一）

夏場のスポーツ

汗をかいたら水分補給を

丹羽 健市



にわ けんいち
山形大学教育学部 部長
専門：運動生理学

近年、スポーツが年齢を問わず国民各層に親しまれるようになったことは、大変喜ばしいことです。夏場のスポーツ障害の一つに熱射病があります。

ヒトの体温調節能力は極めて大きく、環境温度がかなり変動しても深部体温はほぼ一定に保持されていますが、三〇度を越える暑熱環境下でのスポーツ活動は、代謝亢進による体熱産生量の増大と、体熱放射量の減少とが同時に起こるため、容易に体温調節機能の限界に達し、種々の暑熱障害を引き起こす危険性が増大します。

特に、環境温度が皮膚温より高い環境では、輻射・伝導対流による体熱放散は停止し、逆に体内に熱が移動するので、唯一の体熱放散機構は、発汗による水分の蒸発のみとなります。気温の上昇や運動により分泌される汗量が多い時で、一時間で二リットル以上に及ぶこともあります。汗の蒸発は体から熱を奪い、体温上昇を防いでくれますが、失われた水分が補給されなければ、脱水・脱塩による体液の水分・

塩分平衡を乱し、単に運動能力が低下するだけでなく体温は上昇し、循環系や中枢神経系にも影響を及ぼし複雑な様相を呈してきます。

日本の夏は高温多湿であり、毎年、スポーツ活動中の熱中症（暑熱環境で発生する障害の総称で、熱失神、熱疲労、熱けいれん、熱射病等）による死亡事故が新聞紙上に報道されます。痛ましい限りです。熱中症が発生する時期は、七月、八月に集中し、発生時の気温は二八度以上で急激に増大します。また、運動強度と密接に関係し、運動強度が増すほどエネルギー消費量も増大し、かつ体温が上昇するので気温が低くても起こる場合があります。

従来、我が国のスポーツ界では、とすれば根性論が先に立ち、喉の渇きに耐えるのも一つのトレーニングとされてきました。しかし、スポーツ活動中の水分補給は、熱中症を未然に防ぐ手段として、更に運動能力に良い結果をもたらすことが明らかにされてきており、このような考えを捨ててはなりません。

また、この場合、塩分の補給をする必要がないと考えている人もあるでしょうが、問題は脱水の程度であり、体重の二・三%以上の脱水が起こり、更に運動を継続する際には塩分の補給なしでは希釈性の飲水の停止が起こり、体液量を保持することが困難になります。



従って、脱水の程度に応じて積極的に水分・塩分を補給するべきであり、この場合、口当たりがよく飲みやすいものとし、組成としては、〇・二%程度の食塩と五%程度の糖分を含んだ等張液は水に比べて腸内での吸収が早いことを考えると、このような液体を補給させる方がより有効でしょう。

スポーツによる熱中症事故は、無知と無理によって生じるものであり、適切な予防処置さえ講ずれば防げるものです。運動現場の温度、湿度あるいは気流などの環境因子に加えて、運動の強度やその持続時間、着衣条件、暑熱適応の状態、水分や塩分の補給、健康状態など種々の要因について配慮することによりスポーツ活動時の熱中症の発生は未然に予防できるでしょう。

いまこそ「家族」の時代

塩 飽 仁

数年前ですが、バブルがはじけた直後あたりから、仕事のあとにまっすぐ帰宅するお父さんが増えたという新聞記事を読んだことがあります。その記事が載った季節が冬だったせい、「家族一緒に鍋をつつく家庭が増えたに違いない」とも書いてありました。読んだときには「なるほど、これでいわゆる『父親不在』の家庭が少しは減って、子どもたちがお父さんに遊んでもらえる時間が増えるぞ」と思ったものでした。

一九九一年以来、病院の小児科外来で神経症（ノイローゼ）や心身症の子どもを対象にした看護専門外来を開き、看護ケアを中心にした関わりを持ってきました。身体の疾病は全くないのに、心のバランスを失い、頭痛や腹痛、発熱が毎日のように続いて学校に行けない子どもや、家族や友人、学校の先生など周囲にいる人たちとの関係を適切に保つことができずに悩み込んでしまう子どもたちが毎週一五人



(上) 外来での母親面接
(下) 子どもとTVゲームで遊ぶ大学院生

くらい病院を訪れます。子どもたちとは、一人一人外来で実習中の大学院の学生や研究生、私が相手になって、運動をしたり、テレビゲームで対戦したり、じっくりと話をしたりして約一時間を過ごしています。また、子どもと共に病院を訪れるお母さんやお父さんとは、子どもが毎日の生活のなかで遭遇する乗り越えにくい様々な課題にどう取り組んでゆか、一緒に話し合っ解決策を探ってゆきます。

日本では着実に子どもが減ってきていますが、また一方で子どもたちの「心の病」は着実に増え続けています。子どもに対する虐待や少年の犯罪などは、最近では毎日のように報道されています。これらのことは今後も増え続けるだろうと予測する専門家も少なくありません。なぜこのようになってしまったのでしょうか。

この数年間、親子関係を様々な角度から探ってみるところ、母親が自分自身の母親から受けた養育態度は、自分の子どもに対する養育態度とよく似ており、また父親についても自身の父親から受けた養育態度は自分の子どもへの養育態度と似ていることがわかりました。親から子へ、子から孫へと伝わってゆく関係性のうち、父親との希薄すぎる関係や母親との密着しすぎた関係は「望ましくない関係」としての影響が特に強く、神経症や心身症の子どもとその親に見られる特徴的な関係であることもわかってきました。また、このような場合に親と子が適切な

ケアを受けると、多くの親子の関係は良い関係へと変化してゆくことも明らかになりました。

ヒトという動物は大変未熟な状態で生まれてくるために、生まれた後から大変長い期間にわたって誰かの援助がないと生きてゆけません。未熟であるがゆえに早くから他者との関係を築くことができ、その他者との信頼関係をいしずえにして育ち、社会に参加してゆくのです。そして、最も早く築かれ、最も長く続く人間関係が親子の関係なのです。このように人間の心の発達に密接に関係している親子関係には、心の病に関連した要素も、心のバランスを取り戻す要素も含まれているのです。ただし、決して誤解していただきたくないのは、親子関係だけが心の病の原因ではないということです。

私が冒頭の新聞記事を読んで喜んだ理由には、このような背景があったわけです。喜んだのは残念ながら私の早とちりだったようです。その後の日本の経済ははかばかしくなく、誰もが懸命に働いていて、子どもの相手をする余裕などなく、むしろ以前よりも疲れている親たちが増えてきているような気がしてならないのは私だけでしょうか。

だからこそ、今のこの時代だからこそ、私たちは「家族」であることを意識し、それを見据えて行かねばならないと感ずるのです。



しわく ひとし
山形大学医学部教授
専門：小児看護学

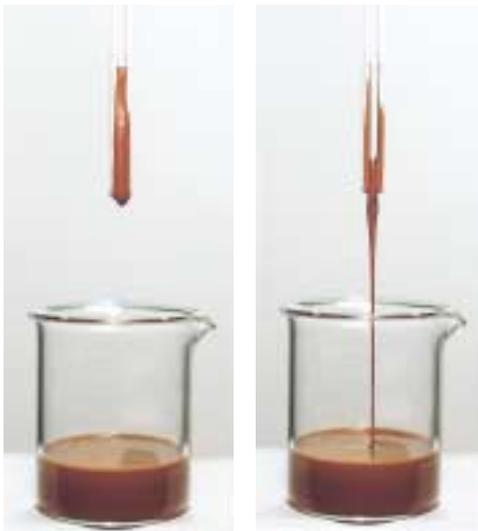
機能性流体の拓く新しい知能機械

中野 政身

液体の粘性や弾性が自由に変わることができたら…

「液体の流れやすさや流れにくさ(粘性)及び硬さや柔らかさ(弾性)などのレオロジー特性を電場や磁場をかけることによって自由に制御することができたら、どのようなことが実現できるだろうか?」

このような問いを我々に投げかけてくれる液体がER(エレクトロレオロジー)流体とMR(マグネトロレオロジー)流体です。これらの液体は外部電場や磁場の作用のもとでそのレオロジー特性が変化する現象、いわゆるER効果やMR効果を示す機能性流体であり、特にその粘性を数ミリ秒のオーダーで電氣的に可逆的かつ連続的に変化させることができ



(a)電場印加 ON 時 (b)電場OFF直後
写真1 電極間の分散系ER流体の挙動

る特筆すべき機能をもっています。そのため、これらの機能性流体を各種機械装置に応用することによって、従来になかった様式の敏速で簡便な制御用機器及び機械制御システムの実現の可能性があります。

ER流体・MR流体とは?

ER流体の典型的なものとして、絶縁性の油の中に外部電場の作用のもとで大きな分極の可能な微粒子を分散させた分散系ER流体が挙げられます。例えば、このようなER流体中に二つの平行な電極を入れて電極間に電場を印加して持ち上げると、写真1(a)のようにER流体が電極間に固まって付いて上がります。すなわち固体のようになるのです。その後、電極間の電場を切ると写真1(b)のようにER流体に流動性ができて液滴となって流れ落ちます。このように電場によって液体から固体、そして固体から液体へと粘性変化を示します。このような分散系ER流体のER効果は、基本的には分散粒子の電場下での電気分極に基づき、写真2(a)のように無電場下で油の中に不規則に散在していた微粒子が、電場印加により電気分極し静電相互作用によりお互い引き付け合い、写真2(b)に示すように電極間に鎖状につながり多数のクラスター(架橋構造)を形成して電極間を物理的に結合することによるものです。流動方向に対して直角に形成するこれらのクラス



なかの まさみ

山形大学工学部教授
専門：流体制御工学

ターが流動抵抗となり、見かけ上流体の粘性が増加したように振舞うのです。一方、磁場に反応するMR流体は、油の中に強磁性体の微粒子を分散させたコロイド溶液であり、何もしなければ液体のように流動性をもちますが、磁石を近づけると、指で触つてもべたべたしないくらい固くなりま

電界の方向



(a)電場OFF (b)電場ON

写真2 分散系ER流体中の分散微粒子による鎖状構造の形成

これらの流体の電場や磁場に対するレオロジー特性とマイクロ流動特性の変化を各種の流れモード（せん断流れ、スクイーズ流れ、圧力流れ）において調べていますが（写真3）、このように応用を前提とした特性について検討しているのが研究の一つの特徴です。そして、その流体のもつ機能を機械システムに活用して、機械システムの機能、性能、知能性を向上させる研究をしています。

機械への知能制御応用

ER流体やMR流体の、流体を媒体として動力を伝達するクラッチやブレーキ、流量や圧力を制御するバルブ、そして液体の粘性を利用したダンパなどの流体が介在する機械要素への応用と同時に、振動制御、ロボット制御、アクチュエータ制御などの各種機械制御システムへの応用について研究しています。



スクイーズ流れの相分離パターン



せん断流れの層状パターン



写真3 電磁場印加型レオメータによるレオロジー測定とマイクロ流動特性の観測



写真4 ER流体を用いた可変減衰ダンパと振動制御実験

一般にダンパは中に注入されている油の粘性を利用して振動を減衰する装置ですが、普通の油の代わりにER流体やMR流体を使うことによって磁場と電場の強さによってダンパの減衰力や減衰特性が変えられるため、高度な振動制御ができるようになります。私の研究室ではERバルブやMRバルブを用いた力拮抗形のペロースタンパを開発し、このようなダンパに適した高度な振動制御法を提案し、除振テーブルや車両サスペンションへの応用を目的にモデル装置を用いた検証実験（写真4）を行い、どのような振動に対しても常にあまりテーブルや車体を振動させないように制御する、いわゆるアクティブ振動制御に相当するような性能を引き出すことが可能なことを実証しています。

ER流体を応用することによる小型化の特徴を活かした研究として、ER流体を駆動源として用いたマイクロマシンという微小なアクチュエータとポンプを開発しています。まったく可動部のない電極だけからなるERバルブでは電極間の電圧を可変して流量や圧力を制御できるため微小化できます。半導

体製造工程で使うフォトリソグラフィ法によって五〜一〇mm四方のサイズのER流体を用いたアクチュエータやポンプを構築しています。

ブレーキの研究に関しては、ロボットのアームのような回転するものに対してできるだけ振動しないアームを制御するために回転型のERブレーキを応用しています。このERブレーキをロボットの関節に直結して用い、印加電圧を可変することによってアームの回転方向に対する減衰力を与えるように応用して、高精度のアームの制御を実現しています。その他に、このようなERブレーキやMRブレーキをコイル巻線用のテンション制御装置に応用する研究も行っています。コイル巻線時の張力変動を従来品に比較して半減することができ、均質なコイル巻線を実現しています。また、MRブレーキを負荷機として用い自由に負荷を変えられる下肢訓練リハビリテーション装置の開発も行っています。

国際会議

ER流体とMR流体に関する国際会議は、第一回が一九八七年にアメリカで開催され、その後二年に一回の割合で開催されており、第六回の国際会議を一九九七年に本学主催で工学部のある米沢市で開催しました。アメリカ、イギリス、フランスなど海外一六カ国からの七八人を含め約二一五名の第一線の研究者が一同に会して、新規な多くの研究成果が発表されています。発表された研究論文一〇七編をプロシーディングとして集録しWorld Scientific社から出版しました。今年の七月には、第八回の国際会議がフランスのニースで開催されます。年々この分野の若手研究者も増え、活況を呈しております。

防災地図と災害考古学の話

阿子島 功



あこしま いさお

山形大学人文学部教授
専門：環境地理学
地形学

一九五九年の伊勢湾台風の高潮によって、もともと低い三角州地帯の干拓地（輪中）が大水害になり、約五千人の死者行方不明者がました。その四年前に作られていた洪水被害予想地図が浸水範囲を予言していたことから、「地図は悪夢を知っていた」という新聞の見出しが現在まで語り継がれることになりました。土地の生い立ちや成り立ちで色分けした地図（地形分類図）は、そのまま災害予測地図になります。ハザードマップ、防災地図、アポイドマップなどとも呼ばれています。被害予測の地図は、洪水のほか、活断層、火山噴火、火山泥流、地すべりなどさまざまな自然災害に対して作られています。山形県内のいくつかの市町では、百年に一回程度の大洪水で堤防が破れたときの浸水深と避難先とを示す



地すべり地の地割れにまきこまれた旧表土層。西川町水沢館遺跡

黒い土層はもともと地表で形成されたものです。黒土や考古遺物の年代によって地割れの時期を知ることができます。



東北地方の第三紀層にみられる地すべり地形

「洪水ハザードマップ」が全戸配布されるようになりました。大洪水の起きる頻度は数十年に一回といったものですが、その土地に長く住んでいる人でなければ、どのようなことになったのかを知りません。新しい造成地に引っ越してくる人は、その土地の災害履歴をあまり考えていないようです。災害の記憶は地域や学校で語り継がれていかなければなりません。低地の中の安全な場所はもはや使い切った感があり、最近の造成地は、河道の跡など浸水しやすく、地盤の弱い土地へと広がっています。近年の工学技術は自然に逆らうには多大のコストを要しますが、自然に逆らうには多大のコストを要します。地すべりを例にするならば、大江町で一九八四年に一七haの古い地すべり斜面が雪解け時期に再活動し、対策工事に三十数億円を要しました。県内にはすでに百億円以上が投じられた地すべり地もあります。地すべり斜面の分布図を丁寧に作ると、地図のほとんどの部分が地すべり斜面になりますから、地すべりは山形県の山地の地形を変えていくごく通常的作用といえます。活断層も盆地と山地の地形の違いをつくる作用ですから、県内の多くの盆地の縁には断層でちぎれた地形が観察されます。さて考古学は地下に埋もれた、過去の生活や文化



寒河江市高瀬山で発掘された断層崖
約九千年前の黒土を切断する活断層であることが、後の掘削工事で明らかになりました。

を掘り出しますが、山形県埋蔵文化センターや市町村の行う発掘現場に立ち会ううちに、埋もれた過去の災害履歴を明らかにできることに気がつきました。最近十年程の間に、地すべり、土石流、活断層、洪水、地震動によって軟弱地盤で起きる噴砂跡などを見つけることができました。西川町の地すべり地では約四千年前の縄文時代中期に集落をかまえて、地割れ凹地に物を捨てながら安全に暮らしていた遺跡もあれば、いくたびも地すべりを繰り返していた斜面の上の遺跡もあります。寒河江市西部の平安時代の遺跡では、数十年間隔で土石流に襲われながらも、めげずに四回ほど竪穴式住居を建て直していました。中山町の最上川に近い自然堤防の上の古墳時代の遺跡では、約百五十年間にやはり四〜五回ほど洪水に襲われながらも集落を構えていました。数十年に一回の災害よりも普段の暮らしやすさを選ぶのは今も昔も同じのようです。災害の考古学は、(時間的にも空間的にもまだ断片的ではありますが)地域の防災に役立つ情報を与えてくれます。

昨年から今年にかけて、山形では留学生に関する話題が絶えません。お気づきでしょうか。例えば、酒田短期大学では、この四月下旬、二〇〇名以上もの中国人留学生がチャーター便で山形へ来ました。同月一六日には彼らが接客する中華料理店『はるびん』も酒田市にオープンしたそうです。山形短期大学でも留学生受け入れ拡大路線を打ち出し、数だけでなく、留学生別科として留学生教育に本腰を入れ始めたそうです。『アエラ』16や民放ニュースでも取り上げられたように、地方都市における短期大学の留学生受け入れは、複雑な事情もありそうですが、特に中国人留学生を中心にちよっとしたブームのようです。

このような全国的な留学生事情下、山形では面白い現象が見られています。一つ目は、知人、血縁を頼って留学してくる者が多いということです。これに山形で国際結婚した人たちの入学も含めれば、山形での留学の特徴は「地縁つづき」と言ったほうがいかもしくれません。

二つ目は、近年、とてもユニークな人材が留学してきていることです。かつて『みどり樹』第四号でもお知らせしたタイ国立カセサート大学教育学部附属高校からの高校生受け入れは、教育学部に留学してきたタイの教員研修生がきっかけでした。その他、モンゴルに日本式の私立高校を創立、自らが校長となった例やバングラディッシュに「山形タツカ友好病院」を建てた例等は、地域住民からの資金や支援を得て、夢を実現させた者たち



花笠祭りに参加する留学生（2000年8月）

です。また、最近では、その才能と本国での実績を踏み台に、より進んだ知識や専門性を付けるべく飛び込んできた者もいます。かつて学校の先生だった例は多く見受けられるものですが、元海外向けラジオ放送のアナウンサー、有名なスポーツ選手、芸術家だったという多彩な職業や輝くばかりの才能を持った人たちが来ています。

三つ目は、何と言っても彼らの子弟もまたとても優秀だったと言うことです。県下、学校教育での受け入れに際してはいろいろと迷惑もおかれましたが、今日、彼らは日本人と同条件で高校に合格し、毎年行われる『青年メッセージ』では東北代表として意見を述べ、今春には東北大学にも見事合格しました。

目下、予備軍としてその将来をスポーツ選手として有望視されている子もいます。

四つ目ですが、これは本学での留学生受け入れの実績と言えらると思いますが、この不況、就職難にもかかわらず、日本で就職する者が増えてきていることです。無論本国内で日系企業へ就職、大学講師等になった者はいませんが、「日本就職組」の内、何人かは行政職に就いたり、高等教育機関で英語、中国語、日本語の専任講師となった者もいます。これ以外、ボランティアで地域在住外国人に対し日本語支援を行う、小学校で日本語を母語としない児童に指導を行う、小学校の国際理解教育で講演や自国紹介、料理披露まで挙げれば枚挙にいとまがありません。ともかく、今日、彼らは山形の「国際化」になくはならない顔です。でも私が正直言って本当に嬉しいと思っているのは、彼ら「お客さん」という存在から、地域社会に貢献できる良き人材になっていってくれたことです。



たかぎ ひろこ

山形大学教育学部助教授
専門：日本語教育学

工学部入学者選抜試験

合否判定過誤について

お詫び

本学工学部の平成九年度以降の入学者選抜試験における合否判定過誤につきまして、受験生はじめ関係の皆様にご多大なご迷惑をおかけいたしました。

受験生の将来を左右するとも言える入学者選抜試験において、誤りは決してあってはならないことであり、多数の受験生の皆様にご多大なご迷惑や損害を与えてしまったばかりでなく、入試制度に対する国民の皆様への信頼を損ねたことは、社会的にも極めて重大な事態を引き起こしたものと深刻に受け止め、受験生並びに保護者の皆様そして国民の皆様に対し、深くお詫び申し上げます。

今回の誤りにつきましては、平成九年度入学者選抜試験から大学入試センター試験の「国語」の得点の取扱いを変更した際に、コンピュータの集計プログラムの変更を行わなかったこと、また、その後その誤りをチェックできなかったことによるもので、その結果、五年間で四二八人も受験生を誤って不合格としてしまいました。

本学では、深い反省のもとに、不利益を与えてしまった受験生の皆様への謝罪と対心を第一に考えて誠心誠意努力して参ります。また、このような誤りを二度と起こさぬよう、その原因について詳しく調査を行い、再発防止策を検討して参ります。

さらに、在学している学生の教育に支障を生じさせることなく、新たに入学される方に対して十分な教育が行われるよう配慮の上、全ての学生を、社会に必要とされる人材として送り出せるよう最大限の努力をしていく所存です。地域の皆様には、引き続き本学学生への変わらぬご理解・ご支援をお願い申し上げます。

山形大学各種催事案内（平成13年7月から9月まで）

1 公開講座

- (1) 「継承と変革の文化学 - 中国のもう一つの見方 -」(人文学部)
開催期間・場所：7/10(火)~7/27(金) 毎週火・金曜日 5日間
山形市人文学部
受講対象者：一般市民 30人 受講料：5,800円
- (2) 「おかあさんのための理科実験教室」(教育学部)
開催期間・場所：9/8、22、10/6、20、27 各土曜日 5日間
山形市教育学部
受講対象者：一般市民 30人 受講料：5,800円
- (3) 「極限へのチャレンジ」(理学部)
開催期間・場所：6/30(土)・7/14(土) 2日間 山形市理学部
受講対象者：一般市民、大学生、高校生 180人
受講料：2,000円(高校生は500円)
- (4) 「ネットワーク社会への道 - インターネットの技術で何ができるか -」(工学部)
開催期間・場所：8/25(土)~9/15(土) 毎週土曜日 4日間
山形市霞城セントラル
受講対象者：一般市民 70人 受講料：5,800円
- (5) 「庄内周辺の身近な生物と作物 - イネ・ダダチャマメ・カラス・メダカ・果物・トマト・キノコ・カビ・バクテリア -」(農学部)
開催期間・場所：7/28(土)・7/29(日)・8/4(土) 3日間
鶴岡市農学部
受講対象者：一般市民 50人 受講料：6,800円
- (6) 「IT社会を遊泳する」(総合情報処理センター)
開催期間・場所：9/4(火)~9/25(火) 毎週火曜日 4日間
山形市総合情報処理センター
受講対象者：一般市民 20人 受講料：無料

2 学部説明会・体験入学

- (1) 学部説明会(対象者は高校生、場所は各キャンパス)
人文学部、教育学部、理学部 9/8(土)
医学部、工学部 8/3(金)
農学部 8/6(月)

(2) 体験入学(場所は各キャンパス)

- | | | |
|--------------|--------|--------------|
| 教育学部 | 9/8(土) | 高校生対象 |
| 理学部(物質生命化学科) | 7/8(日) | 中学生、高校生、教諭対象 |
| 理学部(全学科) | 9/8(土) | 高校生対象 |

3 入学試験

- (1) 医学部3年次編入学(看護学科) 9/10(月) 山形市医学部
- (2) 工学部3年次編入学(Bコース) 8/31(金) 米沢市工学部
- (3) 農学部3年次編入学 7/7(土) 鶴岡市農学部
- (4) 大学院社会文化システム研究科 9/29(土) 山形市人文学部
- (5) 大学院教育学研究科 8/24(火) 山形市教育学部
- (6) 大学院理工学研究科(理学系) 博士前期課程
一般 8/27(月)、8/28(火) 社会人 8/28(火) 外国人留学生 8/28(火)
- (7) 大学院医学系研究科(医学専攻) 9/20(木) 山形市医学部
- (8) 大学院医学系研究科(看護学専攻) 9/5(水) 山形市医学部
- (9) 大学院理工学研究科(工学系) 博士前期課程 米沢市工学部
一般 8/23(木)、8/24(金) 推薦 7/31(火) 社会人 8/23(木) 外国人留学生 8/24(金)
- (10) 大学院理工学研究科(工学系) 博士前期課程(平成13年秋入学)
一般 8/23(木)、8/24(金) 社会人 8/23(木) 外国人留学生 8/24(金)

4 リカレント教育推進事業

- ・「酸性雨を考えてみよう」(山形市理学部)
開催期間：7/10(月)~7/18(水) 3日間
受講対象者：一般市民 20人 受講料：無料
- ・「母子保健」(山形市医学部)
開催期間：9/22(土)~10/27(土) 毎週土曜日 6日間
受講対象者：医師、医療技術者、看護職 50人 受講料：9,800円

5 講演会・その他

- ・宇宙講演会(山形市理学部) 7/7(土)
- ・東北大学谷口義明助教授講演「銀河誕生の秘密」
- ・小さな科学者体験学習会(山形市霞城セントラル山形県産業科学館)
「光の不思議体験」他(参加無料) 7/28(土)

お問い合わせは、山形大学総務部総務課文書広報係まで(023-628-4008)

編集後記

広報誌の名称である「みどり樹」という言葉を聞くとき、真樹に想い浮かぶのは、「みどり樹」という学生歌(この歌は昭和三年に生まれた)と、小白川キャンパスの銀杏並木です。昭和三年に本学の旧文理学院に入学し同三十八年に卒業した私にとって、これらが脳裏に浮かんだだけで、想いはすぐに四〇年以上前に駆け登りです。タイム・トンネルとはまさにこのことでしょうか。

当時の小白川キャンパスは、現在とはまるで様子が違ってました。その頃はこのキャンパスには旧文理学院が、右側には文科棟があり、左側には理科棟が、廊下には文庫や講義室が、廊下が四角に廻り、廊下の内側に研究室や講義室が、うす緑色に塗装された古びてはいたが大変風格のある建物でした。北門から入ったすぐ右の場所には、山高以来の武道館が威容を誇って本部事務棟として残り、また現在の保健管理センターの奥まで辿り(今は本部事務棟が建っている)には、これも山高以来の講堂があり、外部は白壁の、内部は二階キヤラリーの廻らされた立派な建物で、今でも目に浮かびます。現教養棟跡には木造二階建の六棟の学寮があつて、坂上帯は広々とした原っぱで学生が三々五々に談笑し、誰かがアコーディオンを弾いて歌の輪ができていました。こうしてキャンパス模様の一つ一つに、私には様々な思い出が詰まっています。「みどり樹」の学生歌は中々懐かしく、三十八年という同期会のたびに今でも皆で合唱を楽しんでいます。「みどり樹」の編集に参加して、急に若い時代を思い起こした次第です。

(広報誌編集委員会委員長 沼澤 誠)

「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にお寄せください。お寄せいただいたご質問等には、本紙面に「皆様からのQ&A」コーナーを設けてお答えさせていただきます。
〒990-8560
山形市小白川町一丁目4-12
山形大学総務部総務課文書広報係
TEL 023-628-4008
FAX 023-628-4013
Eメール sombun@kbureau.kj.yamagata-u.ac.jp

この「みどり樹」は、インターネットでもご覧いただけます。
アドレス <http://www.yamagata-u.ac.jp>

「みどり樹」は、3月・6月・9月・12月に発行する予定です。



この印刷物は再生紙を使用しています。